

創価学会の 「塔婆不要論」は 誤りです！

塔婆回向は大聖人の御教示

日蓮正宗
NICHIREN SHOSHU



大日蓮出版
[2] H24.1

あなたの大切な先祖も、正法による塔婆供養を心待ちにしているに違いありません。

今あなたに必要なことは、誇法に染まつた創価学会を脱会し、大聖人本来の純粹な信仰に立ち返ることです。

一日も早く日蓮正宗寺院へ参詣し、正しい先祖供養を行いましょう。どれほど、先祖故人の方々が喜ばれることでしょう。



創価学会では、近年、日蓮正宗の塔婆供養に対し、「金儲けの手段」「信徒だましの道具」などと誹謗し、塔婆供養は必要ないと論調を繰り返しています。

はたして塔婆供養は必要ないのでしょうか？

塔婆について、日蓮大聖人は「草木成仏口決」に、

「我等衆生死する時塔婆を立て開眼供養するは、死の成仏にして草木成仏なり」（御書五二二六一）
と仰せられ、死後の生命に対し、非情の草木をもつて塔婆を建立し、開眼供養するところ、その功德が精靈に向向され、死の成仏を果たすことができる御教示されています。

こうした意義から、日蓮正宗では故人への供養として、命日や盂蘭盆会・春秋彼岸会等の折に触れて、寺院へ参詣し塔婆建立を願い出る習わしとなっています。

日蓮正宗の塔婆は、五輪（地・水・火・風・空）の板木に「妙法蓮華経」の題目を認め、その下に戒名や俗名を書くことにより、その塔婆は亡くなつた方の体を表すことになります。その塔婆を御本尊の傍らにお建てし、本宗僧侶の導師のもと読經・唱題することにより、亡くなつた方の生命に御本尊の広大な利益が感應するのです。

塔婆供養の功德について、大聖人は「中興入道御消息」に、

「去りぬる幼子のむすめ御前の十三年に、丈六のそとば（塔婆）をたて、其の面に南無妙法蓮華経の七字を顕はしてをはしませば（中略）過去の父母も彼のそとばの功德によりて、天の日月の如く淨土をてらし、孝養の人並びに妻子は現世には寿を百二十年持ちて、後生には父母とともに靈山淨土にまいり給はん」

（御書一四三四六一）

と仰せられ、故人の成仏はもとより、願主本人も

広大な功德を積むことを御教示されています。

池田大作の指導

（大日蓮華 昭和五九年五月号四）

「塔婆供養の意義について述べておきたい。死後の生命は、宇宙に冥伏し、生前の因縁に応じて、十界のそれぞれの世界で、苦樂の果報を受けているのである。塔婆供養による唱題の回向によつて、諸精靈に追善がなされ、生命の我を惡夢から善夢へと転換していくのである。」



塔婆供養の誹謗を繰り返す創価学会機関誌等